

播磨プランニングスタディ：つなぐ～地域と世代を超えて～

2021年度 太田ゼミ（都市計画研究室）

3年 村田萌々香、大西飛勇吾、岡田ほのか、中島勇風、壽賀菜々葉

1. プロジェクトの背景

私たち太田ゼミでは都市計画研究室として3年生の後期に地区レベルの計画演習を行っている。今年度は高砂市北浜町北脇地区を対象に計画を進めてきた。

高砂市は兵庫県の中南部、姫路市の隣にあり、北浜町は高砂市と姫路市との境目に位置し、人口は約5,000人である。今回計画の対象とする北脇地区は北浜町の中心部に位置し、最寄りの大塩駅からは徒歩約20分である。

2. 北脇地区の課題

私たちは計画演習の実施にあたり、北脇地区の特徴、現在抱えている課題について調査を行った。

まず、2021年10月11日午前10時頃に1回目のまち歩きを太田先生とともに高砂市都市政策課の職員の方々から北脇地区の特徴や課題について説明を受けながらどこに課題があるのか、何が課題なのか、どんなことを感じたのかなどメモや写真を撮りながら歩いた。その後、高砂市の職員の方々とはゼミ生で実際にまち歩きを行った感想を共有し、課題解決のために何が必要かを考えた。まち歩きを通して様々な課題が浮かび上がったが、1回目のまち歩きでは北脇地区の夜の状況が分からなかったため、18日の午後18時頃に2回目のまち歩きを行った。夜の北脇地区は昼間に比べ道が暗いため歩きにくく、人通りが少なく危険な状態であった。以上2回のまち歩きを通して私たちは北脇地区において「道路の危険性(狭くて暗い)」「人通りの少なさ」「空き家空き地の多さ」といった治安や安全面に対する危険性が特に解決すべき課題であると考えた。そこで、この課題を解決するために人々に北脇地区が安全な地区であることを伝える必要があると考えた。

しかし、まち歩きだけでは北脇地区の特徴や課題についての調査が不十分であるため高砂市都市計画マスタープランを参考に特徴や課題の整理を行った。その結果、「交通が不便」「治安、災害時の危険性」といった課題が浮かび上がった。

そして次に、実際に北脇地区の住民の方の声を聞く必要があると考え、11月29日に北脇地区のまちづくり協議会の方々を対象にヒアリング調査を行った。ヒアリング調査では北脇地区の課題として「人口減少」「北脇地区における世代間交流の機会の希薄化」「伝統の継承困難」「世代によるエ

リアの分断」といった課題が浮かび上がった。また、まちづくり協議会の方々は衰退が進む北脇地区を活気づけるための活動を積極的に行っていることも明らかになった。

以上の3つの調査により明らかになった様々な課題からこれらの根源が「地区の魅力の低下」であることがわかった。そこで北脇地区の魅力の創出のための将来像として「世代・地域を超えて交流できるまち」を提案した。理由はこの将来像を達成することで課題の根源である北脇地区の魅力向上を向上させることができると仮説を立てたためである。

3. 将来像達成に向けた提案

そこで私たちはこの将来像を実現させるために、北浜町、北脇地区のゾーニングを行った。そのためにまず、GISを用いて北浜町における住民の世代別分布や居住年数別分布を調査すると地域間の高齢者と年少・生産年齢人口の隔たりが生じていることが明らかになった。そのため北浜町の中心部に位置する北脇地区を交流エリアとすることで北浜町全体における世代間の隔たりが解消され、将来的には地域間の交流につながるのではないかと考えた。

そこで将来像の実現のために交流エリアにおける2つの活動の提案を行った。

1つ目は「夜でも安心して歩くことができる散歩ルート」である。まち歩きの際にも挙げたが、北脇地区は治安や安全面に対する危険性が懸念される。そこで私たちは北脇地区の道を実際に様々な人に歩いてもらい、北脇地区が安全で過ごしやすく感じてもらえるようにする必要があると考えた。道が暗いという課題に対し、北脇地区の景観に適した街灯を設置し、地区の景観を楽しみながら、安全な地区であるということを様々な人に伝えることで北脇地区の魅力向上につながると考えたからである。

2つ目の提案は北脇地区における賑わい創出の拠点となるような交流施設の設置である。北脇地区の現状は地域の集会場はあるが、人々が気軽に立ち寄ることのできる施設や交流拠点となるような施設は見当たらなかった。私たちは交流拠点を中心に人びとが集まり、地区が活性化することで北脇地区の魅力の向上につながるのではないかと考えた。そこで北脇地区に点在する「空き家」に

注目した。空き家の増加は全国的に地域の景観や治安の悪化、家屋の倒壊の危険性など様々な悪影響を及ぼす可能性が考えられるため問題視されている。しかし空き家を問題視するのではなく活用可能な資源として考え、空き家を活用した交流拠点の提案を行った。そうすることで資源である空き家を無駄にすることなく、空き家問題を解消することができる。私たちが活用を考えている空き家の選定理由は、「地域住民の方々から『地域の活動拠点としたい』という要望が挙げられている空き家であったこと」「北脇地区の中で面積が広く、人々の交流拠点としては十分な広さが確保できる空き家であると考えられること」の以上の2点から選定を行った。

次に私たちは空き家の活用方法の検討を行った。様々な交流拠点の事例を調べ、私たちは空き家を「図書館」として活用することを提案した。図書館に注目した理由は、本は誰もが利用することができるものであるため人と人をつなぐツールとして活用ができるのではないかと考えたからである。

そこで図書館の具体的な提案のために、12月に本を共通のテーマとして人々の交流を促すことを目的に運営されている「まちライブラリー」のうち「世界のはしっこ Books&Field」「まちライブラリー@もりのみやキューズモール」「明石のはらくらぶ環境寺小屋*とば・まちライブラリー」の3つを対象にヒアリング調査を行った。結果としてまちライブラリーは共通して本をツールとした、人々の居場所づくりを目的として運営されていた。また、地域とのかかわりに関しては全てのライブラリーで多くの地域の方々に利用されており、人々の居場所、交流の場として重要な役割を果たしているということが明らかになった。以上のヒアリング結果を踏まえ「様々な地域や世代を超えた人々が交流できること」「人々の居場所になること」の2つの機能を持つ図書館である必要があると考えた。そこで、この図書館では本を読むだけでなく、「学習スペースや子育てサロン、餅つきなどのイベントが開催できるような拠点」「『図書館＝静かにしなければならない場所』ではなく、人々のコミュニケーションを通して人と人が交流できる場所」「人々が自然と集まる居場所」としての活用を提案した。

4. 成果と今後の課題

2022年2月2日に高砂市役所で私たちが考えた北脇地区の計画に関する最終発表会が行われた。最終発表会には株式会社スタジオ・カタリストの松原様をはじめ、高砂市都市住宅室の皆様にご参加いただいた。

皆様から私たちの発表に対し課題や現状の調査

ができており、説明も分かりやすく、面白い提案ができていたという評価を頂くことができた。私たちとしても今まで自分たちが考えてきた課題や提案を十分に伝えることができたと感じた。

しかし、課題点としては私たちの提案は具体的な部分が詰めることができず、現実的な提案ができていないというご指摘をいただいた。また、私たちとしても本年度は夜まち散歩の提案は運営方法など具体的な提案に至らなかったことも課題であると考えた。そのため今後の課題としては交流拠点や夜まち散歩の提案における費用の回収方法や住民の方々との合意形成といった提案実現のための具体的な方法について突き詰めて考えることが挙げられる。

5. 謝辞

当演習にあたり高砂市役所の職員の方々、株式会社スタジオ・カタリストの松原様、北脇地区のまちづくり協議会、まちライブラリーの方々に大変お世話になりました。記して感謝申し上げます。

(文責：村田萌々香)



図1：第1回まち歩き後の意見交換
(出所) 学生撮影



図2：交流拠点のイメージ図
(出所) 学生作成